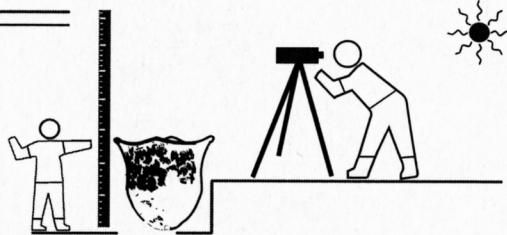


# いわかけ

— No. 113 — 2007, 8, 31

広島大学文学研究科考古学研究室・  
帝釈峡遺跡群発掘調査室



2007年度 帝釈峡遺跡群・庄原市佐田峠墳墓群発掘調査 Ⅲ期(8月26日～8月31日)

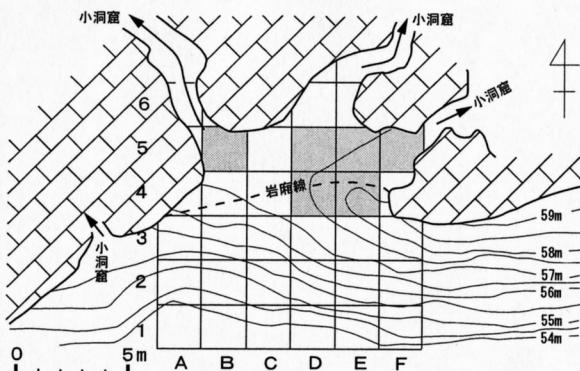
## 帝釈大風呂洞窟遺跡第12次調査

大風呂洞窟遺跡は、広島県神石郡神石高原町永野字大風呂に所在する洞窟遺跡です。本遺跡は帝釈川の支流である岩屋谷川の左岸にあり、そのほぼ直下には有名な観音堂洞窟遺跡が存在しています。遺跡は標高約460m、河床面からの比高約56mの地点に洞窟が南向きに開口しており、間口幅は約11m、奥行きが約4m、岩廂の高さが3～3.5m程で、テラス面の広さが約40m<sup>2</sup>あります。現在までの調査により、本遺跡は縄文時代草創期～早期から古代・中世にかけて断続的に利用されていたと考えられています。

今年度最後の発掘である第Ⅲ期には、第Ⅰ期(8/5～8/12)の調査で確認された弥生土器の精査と、縄文時代の層である第3層の発掘を行っています。

D-4区において出土した弥生中期土器片の広がりを確認した結果、小片となつた土器片が南北約55cm、東西約35cmの範囲に存在することがわかりました。これにより土器は最初に小礫によって幾つかの破片に割れた後、更に大型の崩落礫によって細かく押しつぶされたと考えられます。今後、土器片の接合等を行つてこの土器の当初の姿や埋まつた状況等を調査していく予定です。

既に第3層上面まで検出されていた他の調査区に関しては、今期より第3層の発掘に着手することが出来ました。まだ上部を僅かに掘り下げただけですが、D-5区からは貝類や石器の剥片の他、焼土面がいくつか検出されました。この焼土面は第3層上面に存在しているため、縄文時代のものである可能性が考えられますが、発掘期



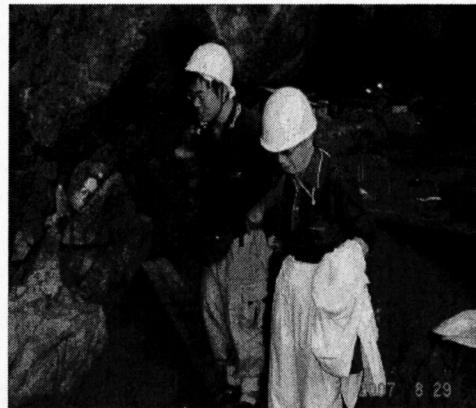
第1図 帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図

間の都合上、その性格や年代の調査を行うことが出来るのは来年度になりそうです。また、8月29日には当遺跡にて現地説明会を開催しました。あいにくの天気の中、幾人の方にお越し頂いて、無事説明会を行うことが出来ました。参加者の方々にとって発掘調査や遺跡に触れる良い機会になればと思います。

大風呂洞窟遺跡はこれまでの調査から縄文時代が主な利用時期であることが分か

っています。今年度から調査を始めた第3層は、以前調査が行われた遺跡の東半部分で数多くの遺物や遺構が検出されており、縄文時代の生活をありありと見て取ることができました。来年度以降には第3層の本格的な調査が始まります。これまで以上の成果が予想される今後の調査を、お楽しみに！

(広大3年 斎藤友紀)



第2図 現地説明会の風景

### コラム1 Y氏と僕

今回の発掘で最も印象に残った人物、それは偉大なる先輩、Y氏です。参加日の初日、集合時間より早く到着し、「広大にはどんな学生がいるんだろう。」と思っていた矢先、広大の車が到着しました。その車の助手席からさっそく降りてきた人物こそ、Y氏でした。Y氏は、初めて広大の調査に参加する僕にフレンドリーに接してくれます。そして何より、現場でのY氏はカッコイイです。現場をしきり、下級生の指導にも余念がありません。また、聞くところによると、Y氏は石器を研究されているとのことでした。宿舎に帰り、僕が石器の実測を始めると、案の定、Y氏はその様子を見に来ます。そして、すかさず「剥離痕が足りねえなあ。」と僕に指摘します。その後は、剥離痕について二人で議論し、アドバイスをくれます。

こんな熱心なY氏も、日常生活では面白いです。川遊びをしては、大切な眼鏡をなくしています。夏の定番である怖い話にも全く動じず、周囲からはブーイングの嵐です。

こんな素晴らしい方に出会うことができたのも、今回の調査に参加させていただけたおかげです。

(関西学院大学2年 真田陽平)

## 佐田峠墳墓群（さただおふんぼぐん）

8月5日から開始された調査も第Ⅲ期に入り、調査の終了も間近です。第Ⅲ期は、残念ながら天気が崩れることが多く、雨の中での作業もありましたが、調査は順調に進んでいます。今年度の調査目標は佐田峠墳墓群の測量調査を完了させることでしたが、北西側C区、東側A区の2区に分かれる佐田峠墳墓群のうち、C区では測量調査が終了し、A区の測量調査も

完了間近です。現在は土の下に埋まっている墳丘墓の貼石を、ピンポールを地面に刺し込んで探り、墳丘の範囲を確認する作業も同時に行っており、次第に墳丘の形が図面上に現れてくるのを日々眺めるのが楽しみになっています。

さて、私たちが現在、測量を行っている佐田峠墳墓群とは庄原市宮内町に所在する弥生時代の遺跡ですが、佐田峠墳墓群は、当遺跡の南側に存在する佐田谷墳墓群と同じく、四隅突出型墳丘墓の初現形態である可能性の高い遺跡でもあります。四隅突出型墳丘墓とは、今からおよそ2000年前の弥生時代中期から後期にかけて中国地方山間部で発生し、日本海側を北陸地方にまで広まった墓の形態です。長方形の四つの角が外側に張り出した形状の墳丘墓のことなのですが、この張り出した部分の形状が、前方後円墳の前方部の起源になったとも考えられています。四隅突出型墳丘墓の初現形態の佐田谷墳墓群と佐田峠墳墓群はほぼ同じ時期に属する遺跡だと考えられているのですが、2000年前のこの地域でなぜ、どのようにしてこのような墳丘墓が現れたのか、これを探るためにも佐田峠墳墓群はとても重要な遺跡だと言うことができるのです。

このような遺跡の詳細を知るために、発掘調査が欠かせないのですが、今年度は基礎データとしての正確な地形図を作るための測量調査のみを実施しました。来年度からは発掘調査を行うことにしていますが、来年度からの調査で佐田峠墳丘墓の築造年代を確定し、四隅突出型墳丘墓の出現についてなんらかの資料が得られるかもしれません。この地域が過去にどのような役割を果たしていたのかを追求するためにも全力で調査を行っていきたいと思います。来年度からの発



第3図 佐田峠墳墓群測量風景

掘調査にぜひご期待ください。

最後になりましたが、今年度の調査も地域の皆様には暖かく見守っていただき、本当にありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

(広大3年 谷真由美)

## コラム2 一日一週間

突然ですが、戻って参りました。と言うのも、僕は今から約二週間前、調査のⅠ期にも帝釈峡を訪れていたからです。Ⅱ期は参加できませんでしたが、このⅢ期になって再び帝釈峡に舞い戻ってきたという次第です。それにしても、です。Ⅰ期、初めて帝釈峡に来たときは、それこそ「訪れた」という感じだったのですが、今は「帰ってきた」というのが正直な気持ちです。Ⅰ



宿舎での風景

期と、今日までのⅢ期を合わせても、僕が帝釈峡にいた時間は半月にも満ちません。けれど、こんなに、ずっと前から住んでいるような気分になるのはなぜでしょう？ 豊かな自然に囲まれて、居心地が良いと言うものもあるかも知れません。けれど僕は、過ごした時間の密度がそう感じさせるのではないか、と思うのです。帝釈峡での生活は、実家や下宿にいるとき、普通の大学とは比べるべくもないほど大変なものです、それこそ一日を一週間に感じてしまうほど充実したものです。きっと、その充実感が時間としての短さを補い、こんなにも帝釈峡の雰囲気に慣れ親しませるのでしょう。Ⅲ期も、終わってみれば短かったと感じると思います。僕は、その短い時間でできる限り多くのことを学び、そしてまた来年、帝釈峡に帰ってきたいと思います。 (広大2年 三輪宜生)

### コラム3 私の食当の一日

私の食当の一日は5:30に始まる。食当は基本ペアなので相方に起こしてもらつて何とか起きた。二時間の間に全員分の朝・昼食を作つて全員を送り出すと次はお洗濯だ。お洗濯は四回に分けないと出来ない。まるでテレビの大家族スペシャルのパワフルなお母さんだ(自分は相方に任せっぱなしのでお母さんにはなれませんでした)。そして10:00くらいには大体の作業が終わり自由時間に突入しちゃいます。自由時間では基本的にボーッとしたり、外に出たり、寝たり、知る人ぞ知る馬車の「たいしゃく号」を見たりしている。その後はおなかが減るので昼食なんですが弁当作りは頑張れても自分のはそうできないのはなぜなのでしょう?この間は弥生食堂でお昼をいただいた。氷カフェが自分の中では今マイブームです。お持ち帰りをして牛乳を足したら余分に楽しめるのがもうひとつのお気に入りポイントです。自由時間が終わると夕食を作つて任務完了です。以上が私の大変な一日でした。

(同志社大学2年 大本朋弥)

### コラム4 8月28日、宿舎にて

さて、これで帝釈での生活も10日目を数えたわけだ。しかも2度目の発掘調査とくれば、如何に小心者の僕であろうと多少の余裕は生まれるようである。これなら今回は、1年越しの野望である帝釈観光を成し得る事も夢ではなさそうだ。僕は作業中の面々に若干遠慮しながら慎ましく、しかしながらダイナミックに帝釈峠観光マップを広げ名所一覧眺め始める。頭の中に流れ始めるインディー・ジョーンズのテーマ。よしよし、いい感じに気分の方も乗ってきた。今の俺ならアーヴィングも聖戦も華麗に切り抜けられる気がするね。どれどれ…雄橋、鬼の岩屋、鬼の供養塔に鬼の唐門、おまけに賽の河原ときましたか。なるほど、帝釈峠は鬼伝説に満ち溢れているわけですな。ここまで鬼に統一された伝承を持つ地も珍しいとは思わないかね、アルフレッド君?ひょっとしたら雄橋も「鬼橋」が語源なのかも分からぬ。ところで、平安時代には盗賊のことを鬼と呼んでいたらしいじゃないか。帝釈にはたくさんの洞穴もあるようだし、案外そういう輩が伝説の下敷きになったのかもしれないじゃないか。ねえ、~~アルフレッド君~~、いや、先輩?

「…うん、そ～ゆ～ことはやることやってから考えてみようか?」

…ごもっともです。

(広大2年 横山瑛一)

## コラム5 30年ぶりの集団生活

今回久しぶりに、若い学生さん達の一員に加えていただいて、Ⅲ期の帝釈峡大風呂洞窟遺跡発掘調査に参加いたしました。実に高校、大学時代のワンダーフォーゲル部のクラブ活動、大学時代の寮の生活に続き30年ぶり3回目の集団生活でした。

早朝の起床、長い調査作業、入浴、食事、その後の勉学読書の時間、まるで軍隊かの如き規則正しい生活、いやはや想像を絶した生活です。このことは勿論覚悟のうえでしたし、平素質実剛健をむねとし、極力贅沢華美を排した生活態度を信条としておりましたので、あまり苦にも成りませんでした。

それよりは仕事のある身ですので、社会のしがらみでこれまで歯科医開業以来30年弱、お盆正月の休みでも1週間も休んだ事がなかったので、社会から隔絶して生活するのに抵抗感がありましたが、これも自分の求める勉学の為いたし方があります。

それと大風呂洞窟までの荷物を持ってのアップダウン、体力の衰え、現実の体力を如実に見せつけられ愕然としたものがあります。29日道半ば残る2日間落伍せぬ様、皆さんの後姿を追いかけていきます。

岩陰に 縄文弥生の 夢を追い (広大修士1年 長井健二)

## 人物往来

8月26日 東広島市埋蔵文化財センター 木谷麻衣子さん

〃 愛知教育大学 河村先生

8月28日 広島大学科目履修生 倉本卿介さん

8月29日 大風呂洞窟遺跡現地説明会に参加していただいた方々

〃 中国新聞戸田剛就・興倉康広記者

8月30日 広島大学埋蔵文化財調査室 藤野先生

〃 庄原市教育委員会の方々

## 参加者名簿（第Ⅲ期 8月26日～8月31日）

広島大学大学院文学研究科 教授 古瀬清秀

〃 准教授 竹広文明

〃 准教授 野島永

〃 大学院生 斎藤礼・長井健二・松波静香・山手貴生

(以上M1)

広島大学文学部学生	斎藤友紀・谷真由美（以上3年生）
	谷口早季・三輪宣生・横山瑛一・若月美佳（以上2年）
広島大学工学部学生	鎌田勝也
同志社大学	大本朋也
関西学院大学	真田陽平
愛知教育大学	河村善也・波木基真・岩田沙弓・加藤徹・山田亞里沙

### 陣中見舞い御礼（50音順）

加藤さん（広大院生）	ジュース・お菓子
河村善也先生	コーヒー・お菓子
倉本卿介さん	アイス・梨
西別府元日先生（広大）	ビール・ジュース
藤野次史先生	お菓子・お酒
弥生食堂さん	野菜

地元の皆様のご支援のおかげで今年度も無事に調査を終えることができました。ご迷惑をお掛けしたこと多々あったかと思いますが、温かく見守っていただき、本当にありがとうございました。

なお、今年度も全作業終了日の31日、新見市の藤井勲さんご夫妻にお肉いっぱいのバーベキューをご馳走になりました。ありがとうございました。

### 編集後記

本年度の調査も無事に終了することができました。今年は大風呂洞窟遺跡で弥生土器が出土し、庄原で四隅突出型墳丘墓の調査を開始するなど例年にも増して調査に活気があったように感じます。来年度からは今回の調査結果をもとに、さらなる研究に励みたいと思います。来年度もよろしくお願ひいたします。

（編集 斎藤）

広島大学考古学研究室	〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3 (Tel:0824-24-6663)
帝釈峠遺跡群発掘調査室	〒729-5554 庄原市東城町帝釈未渡野田原 (Tel:08477-6-0101)
研究室ホームページ URL	<a href="http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko">http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko</a>